

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 期間を通して、高気圧が日本の南から西日本や東シナ海に張り出し、高気圧の縁に沿って湿った空気が北日本や東日本に流れ込む日が続く。

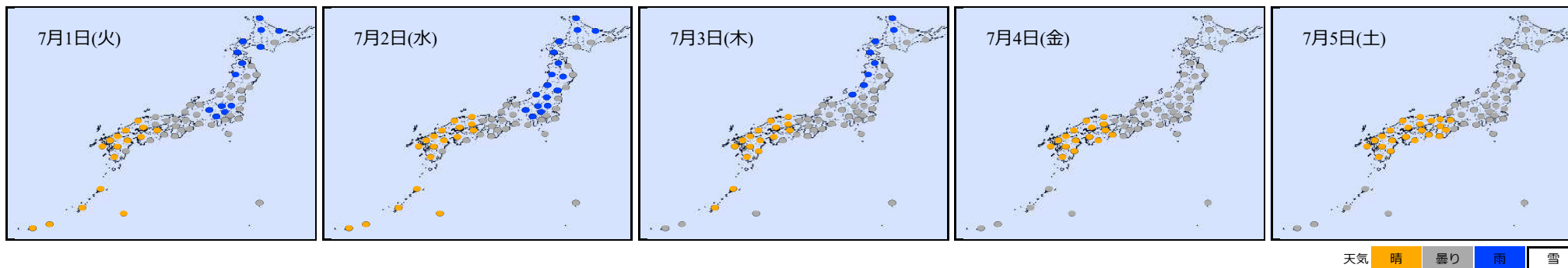
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

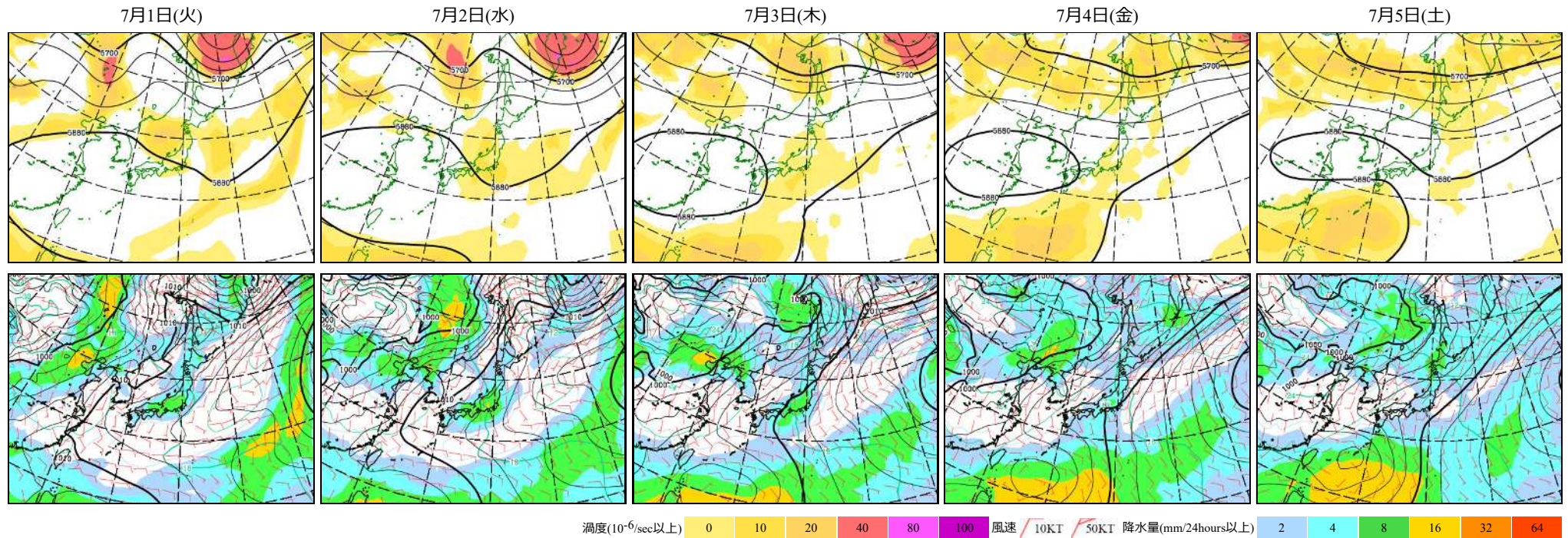
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

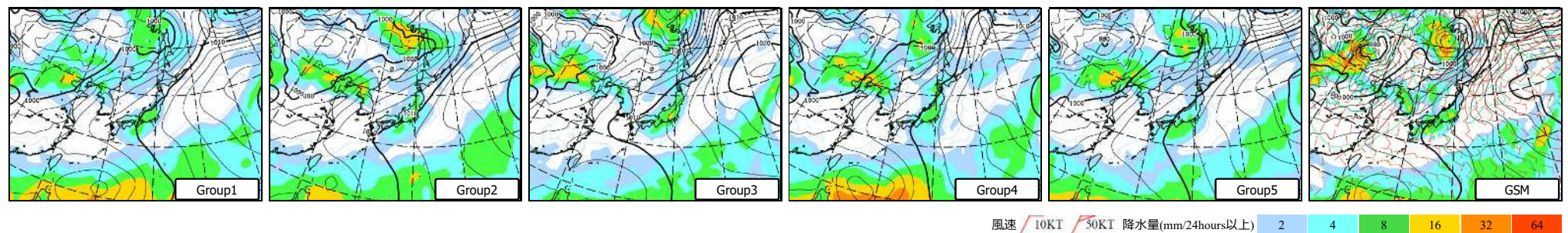


- 北日本は、雲が広がりやすく、7月1日から3日は雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れまたは曇りとなる。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月3日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、サブハイについては、7月1日から2日は東シナ海から大陸への張り出しが強まり、3日から4日は東シナ海と日本の東に割れて日本付近は鞍部となる予想となった。また、日本の北の流れは、2日はサハリン付近のリッジが明瞭となり、3日から4日は北日本付近を通過するトラフが浅くなった。
- 降水確率ガイダンスは、4日の北日本付近で小さくなった。
- 各モデルとも、2日以降は北・東日本付近がサブハイの鞍部となる予想はおおむね揃っている。日本の南の熱帯じょう乱についてはモデル差や初期値変わりが大きい。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、サブハイの日本付近への張り出しの程度や、サハリン付近を通過するトラフの動向に不確実性がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。FEFE19では、5日頃は沖縄地方付近に熱帯じょう乱が予想されているが、他のモデルとの差が大きく不確実性が高い。熱帯じょう乱が沖縄地方付近へ進む予想はサブシナリオ程度に考える。